

## 第十九回 南のシナリオ大賞

「カレイの煮付けはパンに合う？」

### 優秀賞

あらすじ

ニツコ

子供達は独立し、夫婦二人となつた田中浩一と妻の良子は、年金支給までの生活費と老後資金のため、それぞれアルバイトとパートに出る毎日。職場では、つい若い同僚に、浩一は良子の、良子は浩一の不満を口にしてしまう。しかし、その不満に同調されると、なぜか心穏やかではいられない。相手を思いやる気持ちがまだあることに気づいた一人は、還暦から始まる第一の人生こそが、夫婦の本番なのだと、改めて心を一つにする。

### 登場人物

田中浩一（62）

田中良子（60）

山木健太（27）

杉野れな（24）

スープアナウンス女性

テレビアナウンサー男性

病院受付女性

S E 時計の秒針音

浩一 「言うなよ」

S E 昼の情報番組の音

健太 「朝メシは?」

浩一 「そこらへんにあるバナナやらヨーグル

浩一 「ああ、腹減った」

浩一 「5時です。5時です。5時……」

トやらをな」

健太 「独り身の俺と全然変わんないじやない

ですか? やっぱ俺、別れようかなあ」

浩一 「なんだ、彼女いるのか?」

健太 「いるはいるんですけど、最近、メッチ

ヤ結婚したいオーラ出してきて。でも、田

中さんの話聞いてたら」

スーザーナウンス女性 「まもなく9時です。

お皿とつて」

日も気持ちよくお客様をお迎えしましょ

浩一 「これか」

スーザーナウンス女性 「開店時間です。今

良子 「文句を言わない。油も卵も、もの凄く

値上がりしてるのよ。あ、ちょっとそこの

浩一 「お帰り。お昼、もう少しでできるから」

商品補充最終チェックお願いします」

浩一 「500ミリの牛乳はOKだ」

健太 「1リットルも補充OKです」

浩一 「しつかし、開店前のスーザーの冷気は

浩一と健太 「いらっしゃいませ」

半端じゃないな」

健太 「寝てる奥さん横目に職場に来るんじ

や、心も冷えつ冷えつすよね」

良子 「はい、いつもより 美味しいわよ~」

浩一 「いつもどなにか違うのか」

S E 家の玄関が開いて閉まる音。

S E 明るいアップテンポの曲

S E フライパンから皿にチャーハン

を移す音



テレビアナウンサー男性 「7時のニュースで

す」

良子 「テレビつけっぱなし！」

浩一 「ついウトウトとしちまつた」

良子 「あ！」

浩一 「なんだ？ 帰つてきた早々」

良子 「洗濯物、取り込んでないじゃないの！」

SE 窓を開ける音。

良子 「あああ、湿ってる。明るいうちに取り

良子 「じゃあ、パンにしましょ。あなたトー

浩一 「ああ

スト焼いて。私、買つてきたカレイの煮付

浩一 「まあ

け温めるから」

浩一 「さすがにパンにカレイの煮付けは

合わんだろ」

良子 「知らないわよ！」

浩一 「まあ

良子 「あああ、ダメなのよ。あ！」

浩一 「なんだ、今度は。騒々しい」

良子 「もしかして……」

良子 「知らないわよ！」

浩一 「まあ

SE 炊飯器の蓋を開ける音。

M 微かに聞こえるアップテンポの明るい曲

良子 「もう！ 炊いといてって言つたじやない。どうすんのよ。値引きのおかず買って

きたのに」

健太 「あはは（笑い声）。で、カレイの煮付け

おかずにトースト食つたんですか」

浩一 「メシが炊けてないくらいで。大げさだぞ」

良子 「じゃあ、買つてきたおかず、なにで食

込んでなかつたから、機嫌悪いのなんのつて。今日も朝から口聞いてないよ」

健太「あの、なんで離婚とかしないんですか？」

浩一 「離婚？」

健太「田中さん、給料全部奥さんに渡して

るんですよね」

浩一 「ああ

健太「家も建ててあげて、子育て中は専業主

婦で」

浩一 「まあ

健太「奥さん、欲張りすぎですよ。今どきの

女子が欲しいもの、全部手に入れてるじや

ないですか」

浩一 「どうなのか？」

健太「専業主婦つて、なんだかんだ、女子の

憧れです。俺は、夫と書くほうの専業主夫に憧れてますけど」

浩一 「でも、俺、子育ては任せっきりだった  
し…… 九州あちこち転勤して、単身赴任  
もあつたしなあ」

健太 「給料全部家族に貢いだんだから、あい  
こです。稼ぎ頭としてもっと大事にしても

らいたい気持ち、わかります！」

浩一 「大事について、あ、誕生日にはケ  
ーキ焼いてくれるぞ」

健太 「朝起きなくて、誕生日にケーキ焼くつ  
て、メンヘラ女子みたいですね」

浩一 「メンヘラ女子？」

健太 「こっちの事情はお構いなしに自分のし

たい事だけを押し付けてくる女子のこと  
ですよ」

浩一 「いや、うちのはそんなんじや」

健太 「どっちにしても、おれ、結婚はやっぱ  
り回避つす」

SE カートを転がす音

沢山のリネンを手で持つて移す音

良子 「でね、洗濯物もとり込んでなけりや、

ごほんも炊いてないのよ」

れな 「で、パンにカレイの煮付け」

良子 「(意気込んで) 反撃してやった」

れな 「良子さん、そもそも夫婦ってどうして  
ずっと一緒にいられるんですか？」

良子 「え？」

れな 「世の中のおじさんって、正直ぱつとし  
ない人ばかりじゃないですか。電車の中

で情けなく居眠りしてたり、良子さんの旦  
那さんみたいに出世とは縁が無かつたり」

良子 「同僚。会社の同期入社でね」

良子 「ズバツと言うなあ」

れな 「私、そういうおじさんたちにも奥さん  
がいるのが不思議でたまんないでいうか」

良子 「……で、でも、お父さんが一生懸命働  
いてくれたから、なんとか子供二人大学に

行かせることできたし、ほ、ほら、小さい

けどマイホームもね」

れな 「でも良子さん、今その歳でパートして

良子 「転勤するから結婚してくださいって」

れな 「でも良子さん、今その歳でパートして  
るじゃないですか？」

良子 「ま、まあ」

れな 「私、今付き合つてる人いるんですけど  
何を勘違いしてんんだか、向こうは私が結

婚したいと思ってるらしくて、ことば」とく  
防線張つてくるんですね~」

良子 「結婚したくないの？」

れな 「結婚したくないでいうか、今の彼の将  
来性とかメリットあるかとか、考えちゃい  
ますよね。あ、良子さんは、どうして今  
旦那さんと結婚したんですか？」

良子 「ええ」

良子 「で、お父さんが東京から熊本に転勤す  
ることになって、一緒にきてほしいって」

れな 「よく決断しましたね、どのくらい付き  
合つてたんですか？」

良子 「いや、付き合つてなかつたわよ」

れな 「え？ どういうこと？」

れな「えく！ 交際ゼロ日婚つてやつです

か？」

良子「今の時代で言うと、そうなかしら」

れな「だってどんな人かもわかんないじやな

いですか」

良子「うーん、でも、眞面目な仕事ぶりは毎

日見てたし、同期の飲み会とかで、人とな

りはわかつてたし……」

良子「あ、どら焼き！ しかも20パー센

れな「そんなもんですかね。ま、私は、も

う少し結婚相手探しします」

SE 微かに聞こえる信号機の音

車の走る音

バスの「発車します」のアナウン

スピドアが閉まる音

良子「お父さん」

浩一「なんだ、デカい声で後ろから」

良子「お仕事、お疲れ様」

浩一「朝と随分違つた」

良子「ねえ、そのレジ袋の中身、なに？」

浩一「あ、いや……」

良子「なに？ なに？」

浩一「あ、そんな子供みたいに取るな」

良子「あ、お腹空いた。ねえ、今日の昼も

ト引きシール付き」

浩一「……や、安かつたし」

良子「お父さんのおごり？」

浩一「ああ」

良子「わかった！ 昨日の罪滅ぼしだ」

浩一「ちがう、お前、値引きシール好きだろ」

良子「大好き」

浩一「だ、だからだよ」

良子「（疑うように）ふくん、ねえ、お父さん」

浩一「ん？」

良子「私も65までは働くからさ」

浩一「無理するな。なんとかするから」

良子「平気。平気。だから、2人でがんばつ

て老後資金貯めようね」

浩一「老後資金か…… 子供には頼れんしな」

良子「そうだよ。還暦を迎えて、私たち夫婦はこれからが本番。お互い、救急車呼び合える仲でいいようよ」

浩一「（優しい口調で）……そうだな」

良子「ああ、お腹空いた。ねえ、今日の昼も

チャーハンでいい？」

浩一「白メシ、ないだろ？ が」

良子「そうだった。じゃあ、パンで」

浩一「パンとどらやきか。変な昼飯だな」

浩一と良子「アハハ（大笑い）」

（終）